

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600085		
法人名	社会福祉法人 ナイスランド北方		
事業所名	グループホームきたがた		
所在地	佐賀県武雄市北方町大字志久4531番地18		
自己評価作成日	令和5年 2月 20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和5年3月8日	外部評価確定日	令和5年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は閑静な住宅街の中にあり、山と湖に囲まれた自然豊かな場所に施設を構えています。施設の内外に色々な種類の花や樹を植えており、入居者様の散歩時の楽しみの一つになっています。また、湖に面して畑を有しており、その畑では季節ごとの野菜を作り、入居者様と一緒に収穫したり、調理を一緒に行い季節を味わっていただいています。湖に面しているのは畑だけでなく、ウッドデッキでは外気浴や季節ごとに咲く花、自然豊かな景色を眺めてゆっくりとした時を過ごしてもらっています。

掃除や食器洗い、調理など日常生活について可能な限り一緒に楽しむことはもちろんですが、母体となる特別養護老人ホームを始めとする法人内の様々な介護事業所の専門職との連携により、医療やリハビリ、栄養管理などを含めた様々な角度から介護サービスを提供しています。また、自分たちが出来る感染対策について個々で意見を出し合い、消毒の徹底、換気をこまめに行うためにアラームなどを設ける工夫をするなど、団結して感染症対策を行ってきた結果、職員にコロナ感染者は出ましたが、それらが施設内で蔓延することなく、入居者様に安心して過ごして頂いていると思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

落ち着いた木造和風造りの建物で、目につくのは玄関横の「囲炉裏の間」である。履物はそのまま自由に出入りができる場所で、コロナ禍で面会制限中でも家族は安心して面会ができ、出入り口の窓からはリビングで過ごす利用者の様子が見受けられる。また多様に利用している広いウッドデッキやそこから下りると、専任の職員が管理する自家菜園がある。利用者と一緒に季節の野菜が植えられ事業所の自慢の一つである。事業所は地域との融和も大切にしている。職員は利用者とともに散歩を行う際、挨拶を交わしたり、地域の清掃作業など積極的に参加している。コロナ禍でなければ御月見会など事業所で開催し地域住民の多数の参加で行われていた。コロナの収束を願い、また地域との活動を心待ちにしている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から『自分らしく朗らかに』の理念を掲げ、朝礼で理念の唱和を行い意識付けをしてサービスの提供を行っている。 『自分らしく朗らかに』の自分らしくとは、入居者様はもちろん、職員も同様である事を入社日に説明し、介護に当たる職員と、それを受ける入居者様は鏡合わせの関係であることを念頭に置き仕事に務めるよう言葉を掛けている。	開設当初から『自分らしく朗らかに』の理念を掲げ、朝礼で理念の唱和を行い意識付けをしてサービスの提供を行っている。 『自分らしく朗らかに』の自分らしくとは、入居者様はもちろん、職員も同様である事を入社日に説明し、介護に当たる職員と、それを受ける入居者様は鏡合わせの関係であることを念頭に置き仕事に務めるよう言葉を掛けている。	法人理念とともに、開設時に作成された事業所独自の理念は今も思いは変わらず、継続され玄関に掲示されている。利用者はもちろんスタッフも毎日を明るく、朗らかに過ごすことを、又、地域の中においてもコロナ禍ではあるが朗らかに交流が出来るように理念の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍になってからは、地域との交流は減っている。 法人敷地内にある奥庭(美彩の森)へ行く際に近隣住民と挨拶を交わしている。 少しずつ地区の子供浮立や来苑して頂ける方などの交流が再開してきた。	コロナ禍になってからは、地域との交流は減っている。 法人敷地内にある奥庭(美彩の森)へ行く際に近隣住民と挨拶を交わしている。 少しずつ地区の子供浮立や来苑して頂ける方などの交流が再開してきた。	コロナ禍のため地区行事が中止され、交流の機会は減っているが、近隣者とは散歩の時の挨拶をおこない、区費を払い、地域の清掃作業など職員は積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所に住まれている方から声をかけていただく機会があり、近隣で問題となっている方の今後について相談を受けた事はある。入居するために何が 필요한のか、どのような方が入られているのかなどの質問を受け、お答えしている。	ご近所に住まれている方から声をかけていただく機会があり、近隣で問題となっている方の今後について相談を受けた事はある。入居するために何が 필요한のか、どのような方が入られているのかなどの質問を受け、お答えしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍となってからは、家族様に参加いただけていない。そのため、運営推進会議の内容をお便りと一緒に送付させていただいている。また、ケアプラン更新のため、ホームに来苑していただいた際、どのような行事を行ったか、その時の本人様の表情や反応などを伝えている。ケアプランに対する個人的な要望もあるが、全体に活かせるように記録にも残し、行事に活かすこともある。	コロナ禍となってからは、家族様に参加いただけていない。そのため、運営推進会議の内容をお便りと一緒に送付させていただいている。また、ケアプラン更新のため、ホームに来苑していただいた際、どのような行事を行ったか、その時の本人様の表情や反応などを伝えている。ケアプランに対する個人的な要望もあるが、全体に活かせるように記録にも残し、行事に活かすこともある。	委員は民生委員、区長、ご家族様、行政担当者、施設関係者である。コロナ禍で施設関係者のみでの会議を行い、各委員には書面で状況報告を行っている。	運営推進会議の目的は報告だけでなく、第三者との対面での情報交換、率直な意見をもらうことでそれをサービスの向上に具体的に生かしていくことが重要と思われます。コロナ禍で一同が集まり会することが難しく書面での開催をする際は、事前に各委員の方から意見を聴取するような取り組みに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者から空き状況や相談にいられている方の情報などの連絡を頂き、入居に向けた支援を行っている。 生活保護の対象である入居者様について、困った時や不明瞭な点が生じたときは、その都度連絡をして回答を得ている。また、市役所との連携を必要とする入居者様があり、武雄市役所の職員のみならず、他市町村の市役所職員ともやり取りを行っている。	市役所の担当者から空き状況や相談にいられている方の情報などの連絡を頂き、入居に向けた支援を行っている。 生活保護の対象である入居者様について、困った時や不明瞭な点が生じたときは、その都度連絡をして回答を得ている。また、市役所との連携を必要とする入居者様があり、武雄市役所の職員のみならず、他市町村の市役所職員ともやり取りを行っている。	行政側とは運営推進会議のメンバーでもあることから顔なじみである。毎月更新される空室状況は行政側にも通知しており、担当者に異動があれば母体を通し連絡も入る関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に最新の制度について情報共有を行い、勉強会の実施やアンケートによる自身のケアに対する振り返り、現在の状況を整理したうえで、必要と思われるケアが何かを考える機会を委員会を通して行っている。 玄関の施錠については建物の前が車道であるなどの状況を踏まえて、家族様のご理解の上で柔軟に対応している。	常に最新の制度について情報共有を行い、勉強会の実施やアンケートによる自身のケアに対する振り返り、現在の状況を整理したうえで、必要と思われるケアが何かを考える機会を委員会を通して行っている。 玄関の施錠については建物の前が車道であるなどの状況を踏まえて、家族様のご理解の上で柔軟に対応している。	身体拘束の事例はない。法人での勉強会が年間を通して位置付けられおり参加している、拘束による弊害を全職員が認識している。転倒事故防止のためやむを得ず家族の承諾を得てセンサーマットを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修内容の機会を設け日々のケアの振り返りを行っている。また委員会を通して『虐待の芽』のアンケートを実施。それによる見えてきた課題を整理し取り組みを行っている。	内部研修内容の機会を設け日々のケアの振り返りを行っている。また委員会を通して『虐待の芽』のアンケートを実施。それによる見えてきた課題を整理し取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などにより得た情報を共有し勉強会を開催するなど、常に意識して対応している。 成年後見人については、個々に理解度が異なっているため、勉強会を行っているが、質問がある度に答えながら、一緒に学ぶようにしている。	外部研修などにより得た情報を共有し勉強会を開催するなど、常に意識して対応している。 成年後見人については、個々に理解度が異なっているため、勉強会を行っているが、質問がある度に答えながら、一緒に学ぶようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な時間を設けている。改定時は文書での説明のほかに、来苑して頂ける家族様には直接説明し、遠方で難しい場合は、電話にて説明ししたうえで文章を送付して内容を確認して頂いてから一部を返送して頂くよう依頼している。	入居時に十分な時間を設けている。改定時は文書での説明のほかに、来苑して頂ける家族様には直接説明し、遠方で難しい場合は、電話にて説明ししたうえで文章を送付して内容を確認して頂いてから一部を返送して頂くよう依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とは日々のコミュニケーションの中で把握出来る希望などを職員間で共有し、サービス提供に活かしている。家族とは面会時やカンファレンス時などに近況報告をして意見などを伺うようにしている。 法人内部に第三者委員会や苦情・相談窓口を設けて、報告し助言などを受けて運営に反映させている。	入居者様とは日々のコミュニケーションの中で把握出来る希望などを職員間で共有し、サービス提供に活かしている。家族とは面会時やカンファレンス時などに近況報告をして意見などを伺うようにしている。 法人内部に第三者委員会や苦情・相談窓口を設けて、報告し助言などを受けて運営に反映させている。	意見箱の設置はあるが投函の実績はない。コロナ禍で面会制限がある中でも家族と話す機会がある。直接話を聞き、またアンケートを通してその折に出された意見は職員会議で話し合い反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催するグループホーム会議の中で報告や提案を職員が出しやすいようにしている。会議の場での発言が難しいとの意見があったため、会議前にアンケートを実施したこともあったが、返答率が悪く、元の会議時での意見交換へと変更となった。 その内容を踏まえて可能な限り運営に反映させるように努めている。	毎月開催するグループホーム会議の中で報告や提案を職員が出しやすいようにしている。会議の場での発言が難しいとの意見があったため、会議前にアンケートを実施したこともあったが、返答率が悪く、元の会議時での意見交換へと変更となった。 その内容を踏まえて可能な限り運営に反映させるように努めている。	毎月の会議の場や個別に提案や意見を聞く場を作り運営に反映している。管理者も職員の意見を聞き取るようにし、支援の改善や運営に反映するよう努めている。職員からは物品購入についての意見が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回(6月と12月に)自己評価と作文形式の自由に現状について記載してもらうことで、やりたい事や悩みなど、職員のリアルタイムの思いを把握している。また、職員間で話し合った内容をサプリーダーがまとめて報告することで、職員が働きやすい環境になるように努めている。	年2回(6月と12月に)自己評価と作文形式の自由に現状について記載してもらうことで、やりたい事や悩みなど、職員のリアルタイムの思いを把握している。また、職員間で話し合った内容をサプリーダーがまとめて報告することで、職員が働きやすい環境になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の担当を職員個々に任せて、資料作成から発表までさせることで資質向上に努めている。 新人教育などもユニット間に任せて教育を担うことで、ケアの振り返りや学びの場になっている。	内部研修の担当を職員個々に任せて、資料作成から発表までさせることで資質向上に努めている。 新人教育などもユニット間に任せて教育を担うことで、ケアの振り返りや学びの場になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中、他事業所との交流や勉強会は出来ていない。法人内の研修時に、特養の職員との交流機会を設けて、法人内の理学療法士や作業療法士にリハビリについて相談してケアの方法について助言を頂き、統一したケアにつなげている。	コロナ禍の中、他事業所との交流や勉強会は出来ていない。法人内の研修時に、特養の職員との交流機会を設けて、法人内のPTやOTにリハビリについて相談してケアの方法について助言を頂き、統一したケアにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様や家族様に、これまでの生活などに関して話を聞いたうえで、本人に寄り添って傾聴し、安心して過ごして頂けるような関係作りをしている。入居されたすぐは、コミュニケーションを密に取り、時に他入居者様にも間に入っていたきながら話しやすい環境を作っている。	入居者様や家族様に、これまでの生活などに関して話を聞いたうえで、本人に寄り添って傾聴し、安心して過ごして頂けるような関係作りをしている。入居されたすぐは、コミュニケーションを密に取り、時に他入居者様にも間に入っていたきながら話しやすい環境を作っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めのうちは何を話したらいいのかわからない家族様が多く、話出しやすいように質問形式で会話を進めたり、安心して話して頂けるように入居前から密に連絡を取るようになっている。	初めのうちは何を話したらいいのかわからない家族様が多く、話出しやすいように質問形式で会話を進めたり、安心して話して頂けるように入居前から密に連絡を取るようになっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から家族様とのやり取りを行い、話をさせていただいている。また、入居前に様態訪問を必ずさせていただき、現状の聞き取りや入居予定の本人との対話をさせていただいている。	入居前から家族様とのやり取りを行い、話をさせていただいている。また、入居前に様態訪問を必ずさせていただき、現状の聞き取りや入居予定の本人との対話をさせていただいている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の経験談を聞き、その方が得意とされている内容については出来る範囲のお手伝いをして頂いている。その中でコミュニケーションを図るなどして入居者様が話やすい環境作りに取り組み、関係づくりに努めている。	入居者様の経験談を聞き、その方が得意とされている内容については出来る範囲のお手伝いをして頂いている。その中でコミュニケーションを図るなどして入居者様が話やすい環境作りに取り組み、関係づくりに努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告を行い、家族様が対応出来る内容はお願するなど、一緒に支え合う体制を取っている。そうすることで入居者様との関わりが薄れないように努めている。	近況報告を行い、家族様が対応出来る内容はお願するなど、一緒に支え合う体制を取っている。そうすることで入居者様との関わりが薄れないように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中、一時的に面会を中止したこともあり、以前のような支援は行えていないのが現状である。今年度に入ってからは面会もガラス越しへと変更した上で再開したことで、面会の頻度は増加傾向にある。 個人携帯をお持ちでない入居者様も、グループホームの電話を借りて、外部との連絡に使用されている。	コロナ禍の中、一時的に面会を中止したこともあり、以前のような支援は行えていないのが現状である。今年度に入ってからは面会もガラス越しへと変更した上で再開したことで、面会の頻度は増加傾向にある。 個人携帯をお持ちでない入居者様も、グループホームの電話を借りて、外部との連絡に使用されている。	コロナ禍でも面会の場所等を工夫し面会できるように支援している。本人がこれまで大切にしてきた関係や場所を聞き取り、希望があれば家族対応で馴染みの美容室等に行くことができ、関係性を維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人性格も育った環境も違うため、入居者様の関係性を把握し、食席やソファの座る位置を変えて関わり合いを持って過ごして頂けるように交流の場を設けている。	一人一人性格も、育った環境も違うため、入居者様の関係性を把握し、食席やソファの座る位置を変えて関わり合いを持って過ごして頂けるように交流の場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、その後の経過や転居先などの連絡を頂いており、家族様と連絡を取り合っている。 そのため、経過が悪くなって、亡くなられるケースもあるが、挨拶に来てくださる家族様もいる。	退居された後も、その後の経過や転居先などの連絡を頂いており、家族様と連絡を取り合っている。 そのため、経過が悪くなって、亡くなられるケースもあるが、挨拶に来てくださる家族様もいる。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様それぞれとのコミュニケーションの中で、その方の思いや希望などを把握し、日々の様子から考察を行い、カンファレンスを通して情報共有を図っている。困難な場合は家族様に相談して協力をお願いしている。 入居者様の気持ちを最優先として、職員間で情報共有を行ったうえでケアの統一を行っている。	入居者様それぞれとのコミュニケーションの中で、その方の思いや希望などを把握し、日々の様子から考察を行い、カンファレンスを通して情報共有を図っている。困難な場合は家族様に相談して協力をお願いしている。 入居者様の気持ちを最優先として、職員間で情報共有を行ったうえでケアの統一を行っている。	これまでの暮らしの把握は家族などから、今の生活については、利用者と日々の会話の中から汲み取るようにしている。聞き取りが難しい利用者については、本人本位で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や家族様としっかり話をし、本人の様子を観察、知りえた情報を整理してフェイスシートに記載することで職員間で共有している。	入居者様や家族様としっかり話をし、本人の様子を観察、知りえた情報を整理してフェイスシートに記載することで職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情、行動、食事摂取量やバイタル、会話などによって行動の把握に努めている。入居者様の中には毎日同じルーティンの方もいるが、体調や状態に合わせている。生活の中で観察と考察を行い、職員間で情報の共有を行っている。	表情、行動、食事摂取量やバイタル、会話などによって行動の把握に努めている。入居者様の中には毎日同じルーティンの方もいるが、体調や状態に合わせている。生活の中で観察と考察を行い、職員間で情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	困難に陥った時にカンファレンスを行い、職員個々の考察を聞きながら対策をまとめている。 モニタリングをする中で、わからない内容は日々業務に当たっている職員に相談しつつ、必要であれば簡易的なカンファレンスを行うこともある。	困難に陥った時にカンファレンスを行い、職員個々の考察を聞きながら対策をまとめている。 モニタリングをする中で、わからない内容は日々業務に当たっている職員に相談しつつ、必要であれば簡易的なカンファレンスを行うこともある。	利用者には日々のかかわりの中で、家族には面会時などに思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。モニタリング・アセスメントを含め職員とカンファレンスを行っている。	利用者のファイルはあるが、わかりやすい書類の整理方法に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や行った事、入居者様の声を大事にして、個々のケース記録に記入し、情報の共有をすることで把握、実践に活かしている。 重要なことなどは申し送り簿にも転記して改めて周囲に周知している。	日々の状態や行った事、入居者様の声を大事にして、個々のケース記録に記入し、情報の共有をすることで把握、実践に活かしている。 重要なことなどは申し送り簿にも転記して改めて周囲に周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日にはご本人に好きなものを事前に尋ねて、それを盛り込んだ食事を提供している。受診対応については基本は家族様対応としているが、仕事の都合で難しい場合や認知症対応が出来なかったと悩む家族が多く、職員で対応させていただいている場合もある。	誕生日にはご本人に好きなものを事前に尋ねて、それを盛り込んだ食事を提供している。受診対応については基本は家族様対応としているが、仕事の都合で難しい場合や認知症対応が出来なかったと悩む家族が多く、職員で対応させていただいている場合もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍となり、地域の資源を活用することは出来ていない。しかし、花壇の草むしりや花植、ホームエントランスの掃除を手伝っていただく中で、近隣を散歩されている方々との交流を大切にしている。	コロナ禍となり、地域の資源を活用することは出来ていない。しかし、花壇の草むしりや花植、ホームエントランスの掃除を手伝っていただく中で、近隣を散歩されている方々との交流を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があればかかりつけ医を継続していただいている。家族様が近くに住んでいるケースが少なく、入居前まで独居だった方がほとんどである。家族様での受診対応が難しく、緊急でなかったとしても職員が受診対応をさせていただいている。家族様が受診対応する場合においても、主治医にあてた情報提供書や電話にて主治医と情報共有を行っている。	希望があればかかりつけ医を継続していただいている。家族様が近くに住んでいるケースが少なく、入居前まで独居だった方がほとんどである。家族様での受診対応が難しく、緊急でなかったとしても職員が受診対応をさせていただいている。家族様が受診対応する場合においても、主治医にあてた情報提供書や電話にて主治医と情報共有を行っている。	利用者、家族が希望する病院で受診もしくは往診で医療が継続できるよう支援している。協力医療機関とは何時でも相談ができる体制があり、家族も安心感をもっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介助の際に皮膚の観察を行っており、生活の中でいつもと様子が違った場合や異常が見られた時は看護師に報告している。不在の場合は、法人内の看護職員と連携して随時相談できる体制を整えている。	介助の際に皮膚の観察を行っており、生活の中でいつもと様子が違った場合や異常が見られた時は看護師に報告している。不在の場合は、法人内の看護職員と連携して随時相談できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は看護師又はユニットリーダーが作成した情報提供書を入院先にの医療機関に提供している。 入院された後も、ソーシャルワーカーとの連絡を取り合うなど情報交換などの関わりを密にして入居者様が安心して治療を受けられるような対応を行っている。	入院された時は看護師又はユニットリーダーが作成した情報提供書を入院先にの医療機関に提供している。 入院された後も、ソーシャルワーカーとの連絡を取り合うなど情報交換などの関わりを密にして入居者様が安心して治療を受けられるような対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に関する対応や看取りに対する指針について説明している。 その状況になった場合は、本人や家族様の希望を尊重し、施設として対応できることを説明しながら対応について協議しながらチームとして支援する。	契約時に重度化に関する対応や看取りに対する指針について説明している。 その状況になった場合は、本人や家族様の希望を尊重し、施設として対応できることを説明しながら対応について協議しながらチームとして支援する。	状態の変化に応じて家族や主治医と話し合いを行っている。家族より医療機関の入院や併設する特別養護老人ホームなど入所を検討される方も多く看取りはおこなっていない。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人として、毎年消防署より救急救命法やAED使用方法についての講義をして頂き緊急時の対応について学び、誰もが対応できるように取り組みを行っている。 救急車要請が必要になった時のために、グループホームの所在地や連絡先などを掲示している。	法人として、毎年消防署より救急救命法やAED使用方法についての講義をして頂き緊急時の対応について学び、誰もが対応できるように取り組みを行っている。 救急車要請が必要になった時のために、グループホームの所在地や連絡先などを掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間と夜間を想定した避難訓練を実施し、実際に外に避難していただくまでの訓練を行っている。 法人が武雄市の福祉避難所としても指定されており、地域住民の災害時の受け入れ対応も出来るように、地域との協力体制を取っている。	年2回、昼間と夜間を想定した避難訓練を実施し、実際に外に避難していただくまでの訓練を行っている。 法人が武雄市の福祉避難所としても指定されており、地域住民の災害時の受け入れ対応も出来るように、地域との協力体制を取っている。	年に2回、法人全体で避難訓練が行われている。法人内での協力体制やマニュアルに沿った訓練である。コロナ禍で消防団、地域住民の参加はないが、事前に地域には連絡し、非常サイレンで知らせている。全ての職員は消火器と火災通報装置の使い方を承知しており、BCP(事業継続計画)策定も準備され備蓄も整っている。	
okonawa						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人が違う個性を持った目上の方であるということ意識し『認知症患者』ではなく『一人の人間』ということを念頭に置き、距離感なども配慮したうえで対応している。 その方のプライバシーや人格を尊重し、自立出来るよう声掛け、入居者様が愚痴など色々な話をされた時は、傾聴することで安心していただけるように努めている。	入居者様一人一人が違う個性を持った目上の方であるということ意識し『認知症患者』ではなく『一人の人間』ということを念頭に置き、距離感なども配慮したうえで対応している。 その方のプライバシーや人格を尊重し、自立出来るよう声掛け、入居者様が愚痴など色々な話をされた時は、傾聴することで安心していただけるように努めている。	本人の誇りを大事にし、年長者として敬意をはらいながらも自然な様子で接している。人前であからさまに介護したり。誘導の声掛けはせず、目立たずさりげない言葉かけを実践している。事業所だよりなど写真の掲載は家族や本人の承諾をえている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して本人が希望されていることや好きなことを提供している。時にはお伺いや選択肢による質問をすることで、その方の趣味趣向を引き出せる様に努めている。これは食事やレクリエーションなど多岐にわたるもので、自己決定出来るように働きかけている。	コミュニケーションを通して本人が希望されていることや好きなことを提供している。時にはお伺いや選択肢による質問をすることで、その方の趣味趣向を引き出せる様に努めている。これは食事やレクリエーションなど多岐にわたるもので、自己決定出来るように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の趣味趣向を踏まえて声掛けにて『今何がしたいか』を確認しながら支援や提案をしている。交流の場も大事だが一人の時間も大事にしていたらいい。表情や会話、体調や精神面を考慮し、自室で休んで頂くこともある。その方のペースで過ごして頂くように対応している。	個人の趣味趣向を踏まえて声掛けにて『今何がしたいか』を確認しながら支援や提案をしている。交流の場も大事だが一人の時間も大事にしていたらいい。表情や会話、体調や精神面を考慮し、自室で休んで頂くこともある。その方のペースで過ごして頂くように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着替えられる方は好みの服を自分で選ばれているが、介助が必要な方には声をかけて選んでいただくなどの対応をしている。整容についてはいつでも髪がとけるように櫛を洗面台に設置。乱れに気づいていない方には声掛けをしている。また、2～3ヶ月に一度訪問美容を依頼している。	自分で着替えられる方は好みの服を自分で選ばれているが、介助が必要な方には声をかけて選んでいただくなどの対応をしている。整容についてはいつでも髪がとけるように櫛を洗面台に設置。乱れに気づいていない方には声掛けをしている。また、2～3ヶ月に一度訪問美容を依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で育てている野菜を収穫し、料理を1品増やすこともある。料理が好きな方には参加して頂き、調理だけでなく、つぎ分けをお願いするなど得意分野に合わせて支援をしている。誕生会や毎月の行事ごとでは希望を伺い、食べたい物を提供するようになっている。見た目を重視し、刻みや加工が必要な方でも、食欲をそそるような色彩や盛り付けに注意を払っており、食べやすい内容で盛り付けを工夫している。	畑で育てている野菜を収穫し、料理を1品増やすこともある。誕生会や毎月の行事ごとでは希望を伺い、食べたい物を提供するようになっている。刻みや加工が必要な方でも、食欲をそそるような色彩や盛り付けに注意を払っており、食べやすい内容で盛り付けを工夫している。なかなか食事が進まない入居者には、ご家庭の漬物をご用意いただいたり、おやつに嗜好品を召し上がっていたりなどの工夫を行っている。	食材配達の会社と契約しており、そこで管理栄養士による献立も作成され、おやつも含め食材が届く。野菜の皮むきや片付け等、出来る範囲で入居者と一緒に行っている。入居者から食べたいメニューのリクエストがあった場合は、食材をキャンセルし、リクエストに沿った献立を調理し提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体重や状態に応じて量や形態を変えて対応。好き嫌いがある方のみ食材を変更し、美味しく食べていただく工夫をしている。その方の状態に合わせて一口大にカットしたり、とろみをつけるなどの工夫をし摂取量や水分量は毎日の記録として残している。	個々の状態に応じて量や形態を変えて対応。一口大にカットしたり、とろみをつけるなどの工夫をし摂取量や水分量は毎日の記録として残している。食事が進まない入居者には高カロリー食を準備し、完食を目指すのではなく、食べられる量での提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれレベルは違うが、出来るだけ本人に口腔ケアをして頂いている。残渣物が残っているときは介助を行っている。訪問歯科より助言を受け、状態に合わせてスワブや歯間ブラシを使い病気の予防や清潔保持を保っている。	それぞれレベルは違うが、出来るだけ本人に口腔ケアをして頂いている。残渣物が残っているときは介助を行っている。訪問歯科より助言を受け、状態に合わせてスワブや歯間ブラシを使い病気の予防や清潔保持を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄パターンの把握に努め羞恥心もあるため、プライバシーに配慮したうえで定時の声掛けを行い、トイレでの排泄に向けた支援を行っている。パットの量やサイズ、布パンツの利用など、職員でのカンファレンスを行い自立に向け支援を行っている。	個別の排泄パターンの把握に努め羞恥心もあるため、プライバシーに配慮したうえで定時の声掛けを行い、トイレでの排泄に向けた支援を行っている。パットの量やサイズ、布パンツの利用など、職員でのカンファレンスを行い自立に向け支援を行っている。	布パンツ使用の方も数名いる。パットや紙おむつの利用の方でも、日中に限らず夜間もトイレでの排泄を支援している。排泄の自立支援に努め経済的負担の軽減にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	認知症のBPSDが便秘による腹部干満からも発生する事を理解し、体操や運動など体を動かす支援だけでなく、水分量の調整を行っている。排泄チェック表で確認し自力で難しい方に関しては、主治医に相談して下剤の調整を行っている。	認知症のBPSDが便秘による腹部干満からも発生する事を理解し、体操や運動など体を動かす支援だけでなく、水分量の調整を行っている。排泄チェック表で確認し自力で難しい方に関しては、主治医に相談して下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1週間に2度お風呂に入っていただけのよう曜日を決めて対応しているが、拒否がある時は別日に変更している。体調管理(血圧)をしっかり確認したうえで、2人で介助したり、一人で入られたりと、その方の状態に合わせて介助を行っている。皮膚の疾患や感染症の有無によっては入浴の順番が決まっている方もいるものの、職員と1対1で対応し入浴の時間を楽しんでいただいている。	1週間に2度お風呂に入っていただけのよう曜日を決めて対応している。体調管理(血圧)をしっかり確認したうえで、その方の状態に合わせて介助を行っており、職員と1対1で対応し入浴の時間を楽しんでいただいている。入浴拒否がある入居者には、本人の意向を汲みつつ入浴介助を行い、入浴しない日が長くなったときは、清潔保持のため清拭や洗浄、更衣のみでもして頂けるようお声掛けしている。	入浴は概ね冬場は週2回、夏場は週3回としている。しかし両ユニットの浴室には毎日お湯が張られ、希望があればいつでも可能である。福祉用具を使用し、一人ひとりにあつた方法で安全に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やウッドデッキなど、様々な場所に休憩出来る工夫をして自由に寛いでいただけるようにしている。その日の気温や個人の状況を判断しながら温度調整をし、時に膝掛や湯たんぽなどを使用しながら、快適に過ごして頂けるよう対応している。	居室やウッドデッキなど、様々な場所に休憩出来る工夫をして自由に寛いでいただけるようにしている。その日の気温や個人の状況を判断しながら温度調整をし、時に膝掛や湯たんぽなどを使用しながら、快適に過ごして頂けるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様ごとのファイルに最新の薬剤情報提供表を綴じている。内容が変更したり注意が必要なときは申し送り簿などに記入して情報共有を行っている。また、誤薬を防ぐため、4回確認を実施している。	入居者様ごとのファイルに最新の薬剤情報提供表を綴じている。内容が変更したり注意が必要なときは申し送り簿などに記入して情報共有を行っている。また、誤薬を防ぐため、4回確認を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を活かして掃除や洗濯物干し、食事の準備などの日常生活の一部の手伝いなどのお手伝いをして頂くことで、役割を持って過ごしていただくように支援している。工作や編み物、季節感がある物の制作と一緒にすることで季節感やメリハリのある生活が出来ている。	得意分野を活かして掃除や洗濯物干し、食事の準備などの日常生活の一部の手伝いなどのお手伝いをして頂くことで、役割を持って過ごしていただくように支援している。脳トレにパズルや計算問題を好まれるため、飽きがこないように随時新しいものを用意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策に配慮した上で四季を感じていただけるよう、桜や紫陽花、秋桜を見学していただくために、バスハイクなど車窓から楽しんでいただくサービスを提供している。ウッドデッキや畑の周りを散歩したり、美彩の森に行っておやつなどを食べて楽しんでいただいている。コロナ禍のため、家族様や地域の方との交流は出来ていないのが現状ではあるが、安全を確保しながら外出を楽しんでいただいている。	感染症対策に配慮した上で四季を感じていただけるよう、施設周辺の桜見学や杏や梅の花見、ウッドデッキや畑の周りを散歩したり、美彩の森に行くなど、個別支援を行い楽しんでいただいている。コロナ禍のため、家族様や地域の方との交流は出来ていないのが現状ではあるが、安全を確保しながら外出を楽しんでいただいている。	コロナ禍で職員は今できる事を考え支援している。ウッドデッキよりスロープを下りると畑があり車椅子で移動ができる。鉄パイプの柵は手摺り代わりとなるため、利用者は野菜の収穫や収穫を行い楽しんでいる。すぐ近くには美彩の森と名付けられた自然豊かな散策コースもあり、室内ばかりの生活ではない。季節ごとにホーム近くの花見行事は継続している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様や入居者様の了承のうえで、職員が管理している。本人から依頼された時は、家族様に報告のうえ、購入するなどの支援を行っている。以前は買い物などに行き、本人が支払いをしたり出来ていた。感染症のリスクが低くなれば、買い物をして頂くための支援を再開したいと考えている。	家族様や入居者様の了承のうえで、職員が管理している。本人から依頼された時は、家族様に報告のうえ、購入するなどの支援を行っている。以前は買い物などに行き、本人が支払いをしたり出来ていた。感染症のリスクが低くなれば、買い物をして頂くための支援を再開したいと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を自身で管理されている入居者様は自由に電話されている。ただ、充電などの管理は職員が対応することで常に使用できる状態を保つように努めている。持っていない入居者様も依頼があった時は施設の固定電話から話をされているが、混乱時は傾聴して落ち着いていただいてから対応している。	携帯電話を持っていない入居者様ばかりだが、依頼があった時は施設の固定電話から話をされている。混乱時は傾聴して落ち着いていただいてから対応している。また家族様からの電話が多く、ゆっくりお話しが出来るように、場所を設けてお話しいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、四季に応じた貼り絵や作品をレクリエーションの一環として取り組んでいる。共用空間と一緒に作った作品を壁などに掲示して、季節を感じて頂いている。感染症対策の一環で、共用空間やトイレ掃除は一日に2回行い、清潔を保つようになっている。コロナ禍の中、外への外出の機会が激減したが、畑やウッドデッキの花や野菜を見ながら季節を楽しんで頂き、収穫する楽しさを味わっていただいている。	毎月、四季に応じた花の写真の写真を共用空間に掲示している。ご本人が仕上げた塗り絵の作品などをパーティションに掲示させていただくこともある。感染症対策の一環で、共用空間やトイレ掃除は一日に2回行い、清潔を保つようになっている。コロナ禍の中、外への外出の機会が激減したが、畑やウッドデッキの花や野菜を見ながら季節を楽しんで頂き、収穫する楽しさを味わっていただいている。	木の温もりを感じられる建物で天井も高く天窓から日光が差し込み明るい空間が広がる。玄関には季節を感じるができる置物や花があり、季節感も感じられる工夫をされている。ユニット内に室温湿度計を設置し各職員が意識して管理をしている。空気清浄機が設置されており、感染症対策では定時に換気や消毒が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	誰でも使用できるようにソファや談話コーナーにも椅子を配置しており、自由に過ごしていただける環境作りを行っている。畳の間は談話や工作の場だけでなく、洗濯物を干したりたたむ場にもなっており、一つのコミュニケーションの場になっているため、整理整頓を心がけている。	誰もがテレビ視聴できるようにソファの配置を工夫し体操やニュースを視聴して頂いている。畳の間は談話や工作の場だけでなく、洗濯物を干したりたたむ場にもなっており、一つのコミュニケーションの場になっているため、整理整頓を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様に相談して、自宅で使い慣れた物を持参して頂き、好みの物を置いたり、本人が作った作品やカレンダーを飾られるなど自由にレイアウトして頂き、楽しい空間を自身で作っていただけるよう支援している。また、家族様に依頼して家族写真など持ってきていただいている。自分の居室がわからなくなってしまう時でも、自身の作品や名前が書かれたプレゼントを見ることで、自身の部屋と認識されている。	家族様に相談して、自宅で使い慣れた物を持参して頂き、好みの物を置いたり、本人が作った作品やカレンダーを飾られるなど自由にレイアウトして頂き、楽しい空間を自身で作っていただけるよう支援している。また、家族様に依頼して家族写真など持ってきていただいている。自分の居室がわからなくなってしまう時でも、自身の作品や名前が書かれたプレゼントを見ることで、自身の部屋と認識されている。	居室にはベッドの他にダンスや洗面台が設置されている。持ち込みに制限はなく、自宅からはテーブルや椅子、ソファなどを持ち込まれる事が多い。以前は仏壇を持ち込まれた事例もあり、落ち着いた生活ができるよう支援している。利用者は職員の担当制となっており、コロナ禍で家族の訪問が制限されている中、担当職員は利用者の衣類などの整理を一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の表示や安全に歩行出来るように様々な所に手すりを設置している。特にトイレは2枚扉となっており車椅子対応になった場合でも入口のスペースが広く取れるようになっている。レクリエーション道具入れには名前をつけており、自由に出し入れしやすいように工夫されている。	場所の表示や安全に歩行出来るように様々な所に手すりを設置している。特にトイレは2枚扉となっており車椅子対応になった場合でも入口のスペースが広く取れるようになっている。レクリエーション道具入れには名前をつけており、自由に出し入れしやすいように工夫されている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない